令和７年度　一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号　１８
千葉県立土気高等学校 全日制の課程 普通科

１　期待する生徒像

本校を特に強く志望し、次の全てを満たす生徒
ア　学習に意欲的に取り組む姿勢を持ち、向上心を持って努力を重ねることができる。
イ　他者と協力し、部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に取り組む意志がある。
ウ　ルールやマナーを守り、他者を思いやりながら学校生活に取り組むことができる。

２　選抜資料

⑴学力検査	５教科の学力検査の得点
⑵調査書	中学校の校長から送付された調査書
⑶学校設定検査 （自己表現）	ア、イのいずれかを出願時に志願者が選択する。 ア　文章による自己表現 実施形態：検査室で一斉に実施　検査時間：２０分 イ　実技による自己表現 次の種目のうち１つを選択する。 卓球(男女)・野球(男)・剣道(男女)・柔道(男女)・サッカー(男)・ ハンドボール(男女)・バスケットボール(男女)・バレーボール(男女) 実施形態：各実技に分かれて実施。原則、個人ごとの実施であるが、実技によりグループをつくり実施する部分がある。 検査時間：２０分から４０分程度(種目により異なる) なお、表現内容について評価者が簡単な確認を行う場合がある。

３　評価項目及び評価基準

⑴ 学力検査〔５００点満点〕

評価項目	評価基準
ア　５教科の得点合計	５教科（各教科１００点満点）の合計５００点満点で評価する。
イ　個々の教科の得点	１０点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

⑵ 調査書〔１８５点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限５０点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア　教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値にＫ＝１を乗じた数値で評価する。 評定１または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ　出欠の記録	各学年の欠席日数が２０日以上、または３年間の欠席日数の合計が５０日以上の場合は審議の対象とする。
ウ　行動の記録	○が１つもない場合は、審議の対象とする。
エ　特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	生徒会活動、部活動、その他の活動で積極的に取り組んだと認められる記述及び取得資格、表彰等優れた内容の記述については、上限を５０点として加点する。
オ　総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査（自己表現）〔６０点満点〕

次のア、イについて、それぞれ２名の評価者が、３つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき評価する。（ア）、（イ）については、ａ（優れている）・ｂ（標準的である）・ｃ（標準に達していない）・ｄ（問題がある）の４段階で、（ウ）については、ａ（適切である）・ｃ（適切でない）の２段階で評価する。

（ア）、（イ）については、ａを１０点、ｂを６点、ｃを２点、ｄを０点、（ウ）については、ａを１０点、ｃを２点とし、２名の評価者の評価（各３０点満点）を合計し、得点化する。ただし、評価にｄがある場合及び評価の合計が２４点以下の場合は、審議の対象とする。

ア　文章による自己表現

評価項目	評価基準
（ア）　中学時代の取組	中学時代、様々な経験・活動を通して自己を高めようとしていたことや意欲的に取り組んでいたことが明確に伝わる。
（イ）　高校生活への抱負	本校入学後、目標を持って充実した高校生活を送ろうとしていることが明確に伝わる。
（ウ）　意欲・態度	文章から積極的かつ意欲的に取り組んでいることが伝わる。

イ　実技による自己表現

評価項目	評価基準
（ア）　基礎的技能	当該種目における基礎的な技能を身に付けている。
（イ）　専門的技能	当該種目における専門的な技能を身に付けている。
（ウ）　意欲・態度	当該種目に積極的かつ意欲的に取り組んでいる。

４　選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、原則として、募集人員までを入学許可候補者とする。

＜総得点の満点の内訳＞

学力検査の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点	総得点
	評定（Ｋ＝１）	加点	自己表現	
５００点	１３５点	５０点	６０点	７４５点

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

５　その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面接を行う。